



# 旭日單光章受章

～ 故 釣 井 武 氏 ～

釣井さんは、昭和62年4月に波野村議会に初当選以来、平成11年4月までの3期12年にわたり在職し、議会の円滑な運営に尽力。また平成5年7月から約3年間、波野村農業委員会会長を務め、波野村の産業・教育・文化・福祉の向上に貢献し、その功績が認められ、今回の受章となりました。

7月12日に行われた叙勲伝達式では、息子の釣井昭成さんに、県から勲記と勲章が手渡されました。



## 波野産キャベツの出荷が本格化

～今が旬の

波野産キャベツを食べよう！～



波野は西日本一の夏秋キャベツの産地です。昼と夜との温度差が大きくキャベツ栽培に適しているため、昭和41年国から野菜の産地指定を受け、波野産キャベツのブランド化を目指し、出荷量を伸ばしてきました。

今年も出荷時期を迎えた7月11日、JA阿蘇波野野菜集荷場でキャベツ部会（阿南米夫部会長ほか29人）主催のキャベツの豊作・安全祈願祭が行われました。祈願祭には部会員ほか、熊本県経済連や市場関係者など約50人が出席、平成17年波野産キャベツの豊作と作業の安全を祈願しました。なお、JAでの出荷作業は10月末まで続く予定で、今年も昨年同様の3,500トンの出荷量を目標としています。

## 韓国から視察団 来市

韓国の全国文化院連合会の視察団40人が、7月7日、坂梨公民館を視察しました。

メンバーは、韓国で行っている地域文化の発掘や祭りの開催などに、日本の公民館活動の取り組みや地域の祭りを研修し、文化活動の活性につなげようと訪れました。中川竹久分館長が、坂梨分館での青少年活動や生涯学習講座の様子をビデオや実演を交えながら説明、メンバーは熱心に聞き入っていました。



## 阿蘇に泊まって ホテルを見る 企画が好評

～ホテルバス今年さらに  
利用者数伸びる～

市内のホテル、旅館、ペンションなどの宿泊施設でつくるホテルバスツアー実行委員会（代表 田上明さん他17人）は、宿泊者などを対象にしたホテルの観賞ツアーを実施し、旅人に昔の情緒に懐古する気持ちを提供しています。

昨年からはじめた企画ですが、参加者の口コミからか、5月28日から6月末までの期間中に714人が参加、また便乗したバスツアー外の参加者も760人にのびりました。

コースは乙姫、湯浦などで、川沿いを舞うホテルに、大阪から訪れた女性は「こんな幻想的な美しさは初めて。夜の田園もいい」と早速、友人にメールで感動を伝えていました。

実行委員会では「ホテル見学が宿泊に付加価値となる観光資源と再確認できた。今後、この企画をどう集客に結びつけるかが課題。まずは、ご理解とご協力いただいた地域の方々へ感謝する」と来年への取り組みに意欲を見せています

## チームワークで 初期消火

5月29日、蔵原地区で発生した火災の初期消火を行った阿蘇中学校バレー部員8名と保護者、コーチに、7月20日、阿蘇中部消防署長から「皆さんは、冷静に行動し、隣接物への延焼を防ぎ、最小限の被害で済みました。ありがとうございました」と感謝状が贈られました。

火災発生当日、白水中学校での練習試合を終え、帰校中に火災を発見。「ものすごい煙が出ていて、何だろう？とっていたら、火事だったので車を降りてバケツリレーをしました。感謝状をもらうとは思っていませんでしたのでうれしい」と山部清乃キャプテン（3年生）。佐藤堅正校長も「地域のために貢献できたことはとても素晴らしいこと。学校の誇りです」と目を細めていました。



## コミュニティ助成事業で 小池地区が河川敷を整備



小池地区の黒川河川敷を、かねてから草刈りや清掃等の美化活動に取り組んで来られた住民が、このほど、地区の景観整備を図り、郷土の誇りとして愛着を持って地域社会の活力の資源としていきたいとの思いから、緑化推進コミュニティ助成事業の支援を受けて、河川敷全長900mにアジサイ210本、ツツジ560本を植栽しました。アジサイ道や花文字「こうじ」が地域の風物として描かれています。

来年の5月から8月頃には、きれいなツツジやアジサイが咲き乱れて、訪れた人の目を楽しませることでしょう。このコミュニティ助成事業は、宝くじの普及広報事業費を財源として、財団法人自治総合センターが助成決定を行うものです。

6月21日、古城保育園で古城小学校1年生12人を招待して、「たまごの日」が行われ、卒園前に園の畑に植えたジャガイモやトマト、タマネギを、年長児14名と一緒に収穫しました。

野菜を使って料理に挑戦。子ども達は出来上がった料理をおいしそうに食べていました。1年生は、ほとんどが同園の卒園生。年長児と遊んだり、久しぶりに会った先生に学校の報告をしたり、楽しい時間を過ごしていました。

「たまごの日」は、菜園活動を通して、豊かな感性や好奇心を養い、いのちの大切さを見つめなおそうと、古城保育園で20年ほど前から続けている恒例行事です。



## 命の大切さを知ろう



# 阿蘇地域高齢者よい歯のコンクール最優秀賞

～ 飛田 司人さん ～



歯の衛生週間にちなみ「平成17年度阿蘇地域高齢者よい歯のコンクール」が行われました。

これは80歳以上の方で20本以上自分の歯を持っている方のコンクールで、今年は阿蘇地域で28名の方が診査を受けました。その中で見事、飛田司人さん（波野）が最優秀賞に選ばれ、6月25日西原村で開催された「阿蘇の歯まつり」で表彰されました。

飛田さんは81歳。自分の歯が30本あります。歯が丈夫だと何でも食べることができ、それが健康維持につながっているようです。

## ＝飛田さんのコメント＝

「食事は、日頃から辛いものをあまり食べないようにしています。好き嫌いもなく硬いものでも、何でもよくかんで食べています。よくかむことは、健康にとっても役立っていると思います。歯の手入れは、毎日朝と晩に、少なくとも5分以上は磨いています。健康に特に気をつけていることはありませんが、やはり規則正しい生活ときちんとした食事が大切だと思います」

平成17年度8020達成者（敬称略）

氏名	行政区	年齢	歯の数
飛田 司人	檜木野	81	30
山本ミヨ子	赤水	80	27
田中ミヨ	狩尾1区	80	27
永野正巳	西湯浦	80	26
中村ナガ子	車帰	81	25
後藤キヨコ	赤仁田	81	23
飛田モモエ	檜木野	80	23
岩下哲男	檜木野	88	22



6月30日、阿蘇駅前の総合案内所と坊中温泉「夢の湯」で七夕の飾りつけを行った黒川保育園（右）。

宮地保育園は7月1日、JR宮地駅に七夕飾りをプレゼントしました（上）。

## 七夕に何を願いした？

7月7日の七夕を前に、黒川保育園と宮地保育園の園児が、手作りの飾りや、「けいさつかんになりたい」「けーきやさんになりたい」等の願い事を書いた短冊を、一つ一つ笹に結び付けた、七夕飾りを公共施設にプレゼントしました。



## 市政モニター活動がスタート

公募により選定した平成17年度阿蘇市市政モニター21人に7月19日、大阿蘇環境センター未来館で委嘱状の交付を行いました。

委嘱状交付後、佐藤市長が「財政が厳しい今だからこそ、行政主導でなく住民主導で、本当に住みよい希望の持てる阿蘇市でなくてはならない。力添えをお願いします」と期待の声をかけました。

この市政モニター制度は、よりよい市政を推進するため、市民の意見・知的総力を反映していくことを目的に設置され、任期は2年間で、市政についての意見や身近な話題の提供、地域問題の把握、アンケート協力、モニター会議などに取り組みます。



▲委嘱状交付後、ごみ問題を学ぶため、未来館を視察するモニターの皆さん



# 全国大会・九州大会出場 選手紹介

熊本県中学校総合体育大会（県中体連）「相撲」個人代表の部で、見事優勝を果たした、阿蘇北中学校3年の坂本徹平君が、8月23・24日、静岡県で開催される全国大会に出場します。

同じく、県中体連で、2年連続10度目の優勝を飾った阿蘇中学校女子剣道部が、8月18〜20日、三重県で開催される全国大会に出場します。

## 団体戦メンバー

若松真理(3年) 河野千恵美(3年) 中尾文香(2年)  
 山田瑞稀(2年) 秋吉優美(2年) 原友里奈(2年)  
 富松美晴(1年) 松岡昭江(1年) 山口瑞生(1年)  
 山本美穂(1年)  
 個人戦  
 河野千恵美(3年)

9月11日、鹿児島県で開催される学童五輪「相撲」に、碧水小学校5年の濱野和馬君と同小6年の霧林将也君が出場します。

8月20日、鹿児島県で開催される九州学童軟式野球大会に一の宮マリンスズが出場します。

## メンバー

岩下知磨(6年) 三重野勝幸(6年) 鞭馬圭太(6年)  
 佐藤周平(6年) 河島良憲(6年) 井手亮太郎(6年)  
 古澤北斗(5年) 田嶋孝成(5年) 志賀主麻(5年)  
 芹井竜馬(5年) 西田将大(5年) 竹原正人(5年)  
 嶋野佑哉(5年) 井手光彦(5年) 大塚悠平(5年)  
 伊藤桂太(4年) 河嶋涼輔(4年) 岩下優也(4年)  
 河野公洋(4年) 河島壮志(4年)

## 阿蘇の郷土料理を伝承



一の宮町生活研究グループ連絡協議会（井手キミ子ほか38人）は、四季折々に採れる地域の農産物をふんだんに使った料理、また、阿蘇に古くから伝わる料理を子供たちに伝えたいと、毎年、講習活動を行っています。

6月27日から5日間は、阿蘇高校の選択授業に参加。もうすぐ社会人となる生徒たちに伝承したメニューは「ひこずり、冷や汁、米粉団子、麦飯」。実習では、時折、昔の食生活の話に花が咲くなど、楽しい時間を過ごしました。

「生徒さんたちが喜んで調理している顔を見るとやりがいがあります」と会員。

なお、協議会は、こうした講習活動や家庭菜園づくり、農産加工品の開発などの取り組みが認められ、平成16年度「熊本県農村漁村生活いきいき活動」農業部門で奨励賞を受賞されています。この賞は農業の充実と開発に優れた活動実績をもつ団体を表彰するものです。

## 魅力あるまちにします！

～交差点に花苗350本を植栽～

古神地区の老人会、婦人会、子ども会、青少年育成協議会の皆さんが、公民館活動の一環として、7月3日、地区で最も通りの多い国道57号沿い仙酔峡登り口交差点の花壇整備を行いました。

土地所有者のフルキ石油(株)さんの好意でこの活動を始め今年で3年目。この日はあいにくの雨でしたが、子どもから高齢者まで声を掛け合いながら作業を続け、マリーゴールドなど350本を植栽しました。この夏には、オレンジや黄色の花がまちを彩ります。

このほか古神地区は、スポーツ大会、伝承遊びなどコミュニティー活動を行っています。



# SLあそBOY が引退

## 思い出アルバム



←昭和63年の運行開始の様子。写真は、第1回阿蘇火の山まつりSL写真コンテストの入選作品。

## 8月28日が最終運行

昭和63年8月28日から、熊本～宮地間を走り人気を集めていたSLあそBOYが、車体の老朽化を理由に、8月末で運行を終了します。

運行開始当初から、観光協会などの観光関係者が歓迎イベントを開催したり、キャラクターグッズやお菓子を販売するなど、これまで阿蘇観光の目玉として活用されてきました。この17年間「シュッ、シュッ」と、蒸気機関車特有の音と汽笛を響かせて煙吐く雄姿で人々に親しまれたSLあそBOYは、大正11年製造。昭和63年の運行開始時は、JRの現役SLの中で最も古いものとして、当時注目をあびました。



→平成8年、夏日漱石の小説にちなんだ「二百十日号」となっており、漱石来熊百周年イベントにも一役かきました。写真は、阿蘇駅での歓迎の様子。



→JR阿蘇駅・宮地駅では、あそBOY開催17年間の活躍を記念したイベントが催されています。阿蘇町農産物加工部会が地元の食材で作った「SL弁当」を販売（写真）。また、宮地駅では、四季彩いちのみやが採れたての農産物を販売。思わぬ地元の人たちの接待に乗車客からは喜びの様子でした。



### ＝記念イベントのお知らせ＝

8月28日までの土・日曜日に開催

- JR阿蘇駅で、特製「SL弁当」(800円)の販売 (SL運行日のみ)
- JR宮地駅で、採れたて野菜の直売
- 8月28日(日)は、フィナーレとして、JR宮地駅で地元の子ども達による器楽演奏などを開催 (14:15～)

夕方5時に防災無線で流れる「阿蘇市の小学生のみなさん。今日も一日元気に過ごせましたか」の帰宅を知らせるメッセージ。子どもの声をそのまま使った放送が、今話題になっています(旧一の宮町では、以前から実施)。

この放送は、市教育委員会が夏休みの間、児童の安全を目的に実施しており、声は、古城小学校放送委員長の甲斐雄也君(6年)です。

「自分の声が流れるのは少し恥ずかしいけど、6年生なので挑戦してみました。この放送を聞いてみんなちゃんと家に帰ってくればいいです」と、甲斐君。

さて、次回はどこの小学校の放送委員かな？

夕方5時に流れる  
あの可愛い声は？





←7月3日の式典で、支援企業・団体に感謝状を贈呈する佐藤義興理事長

## 野焼き支援などに取り組む 阿蘇グリーンストック が10周年

日本初の試みとして、平成7年、都市住民や企業、農村、行政の三者が連携して阿蘇の緑の生命資産を後世に引き継いでいくことを目的に（財）阿蘇グリーンストックが設立。これまでのあゆみを記念した式典が、7月3日、阿蘇プリンスホテルで開催されました。

式典には財団顧問である、長野吉彰（株）肥後銀行顧問はじめ、九州農政局長、永野光哉（株）熊本日日新聞社名誉会長、郡内の町村長、議員、そして支援会員である県内の企業や団体の代表など阿蘇を愛する、大切に思う160人が出席。理事長である佐藤市長が「今や地域の活性化や環境の保全といった課題は行政の施策だけでは実現できない、そういった中で、このグリーンストックの取り組みは極めて先進的と考える、一昨年、環境省より国立公園管理団体全国第一号の指定を受けたことも、この活動が未来の阿蘇に大きく貢献する環境保全活動と認められた証、今後も都会の企業、個人の協力をお願いする」とあいさつ。この後、映像を使って阿蘇の状況や活動が紹介されると会場は美しい阿蘇を守っていきこうという機運で盛り上がりました。

### 財団法人阿蘇グリーンストックのあゆみ

- 昭和63年 熊本大学 佐藤誠先生・農業 山口力男氏（赤水）によりグリーンストック構想が提唱される
- 平成4年 財団法人阿蘇グリーンストック設立準備会が発足
- 平成5年 グリーンコープ組合員による財団設立基金積立が始まる。
- 平成7年 財団法人阿蘇グリーンストック設立
- 平成8年 あか牛産直事業と水源涵養の森づくり活動・野焼き体験が始まる。
- 平成9年 熊本日日新聞による「阿蘇千年の草原」キャンペーン
- 平成10年 草原募金助成事業により「草原・牧野の実態調査」と「都市ボランティアの組織化」を行う。
- 平成11年 第1回野焼き支援ボランティア活動が始まる。
- 平成12年 第6回環境水保賞受賞
- 平成13年 朝日新聞社 明日への環境賞受賞
- 平成15年 環境省から全国初の国立公園管理団体の指定阿蘇地域自然再生推進計画調査への参画  
水源涵養の森づくり  
9,600本の広葉樹の植林と管理  
農家民泊・農業体験修学旅行の受け入れ
- 平成16年 あか牛オーナー制の開始  
グリーントラスト活動  
交流体験施設「ゆたっと村」オープン



設立から10年間、阿蘇グリーンストックの事務局として活躍する専務理事の山内康二さんに今後の財団の方向性についてお聞きしました。

これから環境省が本格的に動き出す「自然再生推進計画」に阿蘇が挙げられました。北海道の釧路に続いて全国で2番目の区域で、この計画に歩調を合わせ住民の皆さんと草原維持に取り組んでいきたいと思っています。また、近く阿蘇の水資源の涵養のため、地元のホテルを守る会・阿蘇の自然を愛護する会などと水質調査も行います。

設立当初バブルの崩壊など社会情勢のあおりで厳しかった財団でありましたが、平成10年の阿蘇草原募金の助成を受け、草原・牧野の実態調査や野焼き支援ボランティア活動などの実施で、理解も深まり企業会員も年々増加、野焼きボランティアの登録メンバーは520人にのびりました。特に企業の「環境活動参加」の問い合わせが多いことから、今後さらに広葉樹植林などを実施して行きます。市民の皆様でグリーンストック活動に興味のある方は気軽に事務局（Tel：35-1110 JR赤水駅内）にお問い合せ下さい。

### 建物払い下げのご案内

次の建物を入札による払い下げを予定しています。  
ご希望の方は誰でも参加できます。

所在：一の宮町宮地504-1  
（阿蘇市役所東側倉庫）  
構造：基礎 コンクリート  
骨格 鉄骨造  
外部壁 コンクリートブロック  
屋根 鉄板  
面積：173m<sup>2</sup>  
用途：倉庫

入札日：9月1日（木）10：00～

問合せ先：阿蘇市役所 管財課  
Tel：22-3204